

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 北名古屋市ひまわり西園				公表日 令和7年3月21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	2	・部屋の使い方を工夫して、安全に過ごせるようにしている。 ・一同に集まれる部屋がないため、活動内容や方法を考えて行っている。 ・年齢別、少人数制での療育をすることにより、スペースや活動のしやすさを考えている。	・遊戯室等のスペースがない為、限られたスペースで室内活動を行わなくてはならない。 ・各部屋の大きさが限られているため、体を使うような活動時に狭く感じることもある。年齢で活動場所を分けるなどの工夫はしているが、研修など来客が多い時には圧迫感を感じてしまうこともある。 ・一つ一つの部屋が狭い。 ・活動のしやすさを考えてはいるが、収納スペースがない部屋では机や椅子がふちに寄せてある状態となっているので、改善できるようであればしていくと良いと思う。 ・トイレの個室の数は良いが、スペースが狭く保護者が付いてトイレトレーニングをするのに窮屈さがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		・最良な親子支援ができるように、毎日職員の配置を考え、采配している。 ・担任療育指導員の他フリー療育指導員にクラスにはしてもらい運営をしている。 ・親子さんの状態により、職員がどのように入るかを打ち合わせて決めている。そのような工夫することにより、人数だけではなく、必要な所で職員が入れていると思う。伝達等がうまくいかず、適切ではない職員数であった時は、事後の話し合いをしたりもした。できれば、事後ではなく、その場での確認を今後行っていくよう、職員間で確認し合った。	・年齢別の療育を行うため、職員数がギリギリで活動内容が限られてしまうことがある。また、事後フォロー教室への助っ人で職員が多く必要になってしまい療育の人手が少なくなってしまうことがある。もう少し余裕を持って療育ができたらと思う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	6	・バリアフリーではない場所があるため、誰にとっても良い環境とはいえないものの、その場合、職員が配慮をし対応をしている。 ・子どもにわかりやすく構造化されているかどうかは、クラス担任同士で話し合ったり、上司に相談したりしているので今後も引き続き行っていく。 ・遊ぶ部屋と給食を食べる部屋を分けている。	・園内に段差が多く感じる。 ・教室への入り口付近は段差があり、下の子どもさんや教室に入るときにベビーカーを持ち上げることが必要で、数人の協力が必要。 ・今はバリアフリーの必要な利用者さんがいないが、トイレへの段差等スムーズに動けない点は改善が必要。 ・バリアフリーに関しては、段差が多かったり、老朽化により亀裂が入ったりしている箇所、歩きづらい場所がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	2	・職員がアイディア、工夫をし最善を尽くしている。 ・活動に合わせた空間になっているかという点、限られた空間の中で椅子の配置を考えたりし、活動がしやすいようにしている。 ・室内の掃除の他に、おもちゃの消毒も行っている。	・ありが発生することがある。対策はその都度行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		・クラス担当で相談しながら行っている。		
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11	1	・会議に出られなかった時は記録を閲覧したり、内容を伺ったりしている。 ・職員会議や個別支援会議などを行い、話し合いをしている。	・目標設定や振り返りに、時間的に参加出来無い職員に報告がしっかりと出来ていないのと思う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・保護者の意見を職員間で共有をし、少しでも改善する方向へと迅速に対応している。 ・しっかり確認し、次へと活かせるようにしている。	・今までは紙媒体だったため、内容把握が迅速に行われていたが、入力方式になると把握に時間がかかってしまう所は改善したい。	

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・職員の意見を言える環境を作り、その意見により検討をしながら業務内容の改善に努めている。 ・現場の話を園長、副園長に相談しながら進めている。	・把握する機会のひとつが、入力方式の事業所評価だとすると、入力だけでかなり時間がかかってしまう。勤務時間内はやらなくてはいけないことが多く、フォームに入力し途中保存出来るが自宅作業になってしまう。紙媒体だとやる時間を見つけ、続きから記入しやすいから自宅作業にならずに出来る。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	1	・指摘があった部分は、早急に改善するようにに努めている。 ・その意見を職員に周知しながら職員間で迅速な対応を考えている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	12		・積極的に研修を受けるよう、意識している。 ・職員が大きな負担がかからないためにも、身近で研修が受けられるようにしている。 ・コロナ以降、リモートの研修になっている。聞きにくさがある時があるが大勢で受けられるのはいい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		・保護者から十分に時間をかけて話を聞くようにしている。 ・保護者からしっかりと聞き取りをして作成し、それを保護者ときちんと確認している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	1	・子に関わる職員で検討を重ね、支援の共有をはかっている。 ・まだ始まったばかりなので、手探りな所はあるが、ある程度のベースができてスタートしている。	・子どもの支援に関わる職員が共通理解の下での共通理解、検討がきちんとされていないので、連絡や報告が必要。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		・毎月会議を行い、共有できるようにしている。	・会議で共有しているが、参加できない職員もいるので、報告を怠ってしまう事もある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		・マンネリ化しないよう、日々アイデアを出し合いながら、よりよい活動を計画している。 ・子どもの発達を考えて計画を立てている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12			・必要に応じた個別活動をしているので、全員では無い。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		・職員の動き等、細かい部分まで役割分担を伝え合い、臨機応変にも動けるようにしている。	・行っているが、日々の業務に追われ、深く話し合いが出来ない事もある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	1	・振り返りは、会議という形より、普段のやりとりのなかで、日常化して行われている。 ・療育後にはその日の振り返り及び情報共有をしている。	・できていない日もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・連携を意識して行い、子どもの最善な支援を一緒に考えていく機会を設けている。 ・丁寧に進めていっている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	11	1	・児童発達支援センターは設置されてないが、事業所に定期的に、各専門分野の講師を招き、助言等を受ける機会を設けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12		・近隣の保育園との交流を行っている。	・4.5歳児は保育園と交流をしているが、2.3歳児もできると良い。
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12			・保護者と話しながらを心掛けてはいるが、できない事もある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12		・参加してもらえるように早めに予定を伝えている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		・細かい確認を行い、保護者の同意をしっかりと受けている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		・話しやすい関係性を作ること心かけている。 ・保護者の様子を気にかけて声をかけるようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	1	・毎月開催し、OBとの交流機会も設けている。	・保護者同志の交流会は行っているが、兄弟は行っていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		・自分では対応出来ない時は園長に相談している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		・園だよりを配布している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		・こどもとは意思疎通が難しい場合もあるが、仕草、表情から感じ取り、保護者や担当指導員とその時々思いを確認している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	3	・クリスマス会のサンタさんを、自治会でお願いはしている。	・コロナになってから、地域との交流機会が失われたので、少しずつ、復活できるよう、何ができるか考えていく必要がある。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1		・防犯訓練は行っているが、他のマニュアルは不十分分がある。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	1	・職員間で反省を行っている。	

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	1		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	1	・何かあれば朝の打ち合わせで共有される ・足りないところもあると思うが、気づいたら声を上げていると思う。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	1	・なるべく見守りの療育ができるようにしている。	